

こんにちは ブラインテックです

第49回 明治大学付属明治高等学校・中学校図書館 2008年10月

今回は、明治大学付属明治高等学校・中学校を訪問しました。

明治45（1912）年に神田駿河台に開校以来、多くの人材を世に送り出してきた同校は、2008年4月に東京都調布市に移転したばかりです。移転と同時に男子校から男女共学になり、伝統と革新が調和した新たな歴史の1ページを開いています。

図書館は、ラーニング・リソース・センターとして、学問や学校生活の中心となる施設として運営されています。スクールカラーの紫紺のマークが映える、新しく開放的な図書館内を、司書教諭の江竜珠緒先生にご案内いただきました。

——本日はありがとうございます。神田から東京郊外の調布に移転され、すばらしいキャンパスが誕生しました。はじめに学校の沿革をお教えてください。

明治大学は1881（明治14）年に創立された明治法律学校がはじまりです。近代国家において法学の重要性が高まるころ、フランスから帰国したばかりの岸本辰雄らにより、東京・有楽町の旧島原藩邸内跡に開講しました。

本校は当時明治大学学長であった岸本により、1912（明治45）年4月、旧制明治中学校として神田駿河台の明治大学構内に設立されました。

1948（昭和23）年の学制改革以降、推薦制度による明治大学までの一貫教育の方針を確立して、唯一の明治大学直系の付属高等学校・中学校として今日に至ります。

教育方針は、建学以来の「質実剛健」「独立自治」の精神を原点として継承し、明治大学の付属校としての利点を最大限に活かした、中・高・大の一貫教育を行っています。創造性や個性を伸ばし、また自ら課題を発見し、解決していく自主的な力を養成します。

2008年4月に開校した調布新校舎は、全て新しく設計され、恵まれた教育環境の中で授業を展開しています。また、建学以来100年近い歴史の中で初めて男女共学制を取り入れ、中高合わせて約1,200名の生徒が学んでいます。調布キャンパスの環境、施設の飛躍的な充実に伴い、スポーツ・文化活動への取組みを重視し、「情操教育」「人間教育」にも力を入れ、心身共にバランスのとれた広い視野と豊かな心を持った、礼節を重んじる人間を育てています。



——その歴史と伝統の上に、新しい視点で設計されたキャンパスなのですね。図書館は学校の中心にあり、吹き抜けが開放的で落ち着いた木目が美しく、とても居心地のよい空間です。

新校地は東京ドームとほぼ同じくらいの広さで、新校舎の床面積は旧校舎の約2倍の大きさになります。新校舎は「STUDY=学習環境の整備」「SPACE=ゆとり空間の活用」「SPORTS=スポーツ施設の充実」の3つのSをコンセプトに設計・建設されました。幅約6mの廊下など、ゆとりある空間を演出しています。この「STUDY」の一環として、調べ学習のさらなる充実を目指し、校舎の中央に駿河台時代の約2倍規模の図書館を中心にした学習センターを確立し、「Library」を超えた「Learning Resources Center」としての新たなコンセプトで図書館はスタートしました。

図書館は約500m²、2・3階分高さ6mの吹き抜けで、開放的な空間を実現しています。この高さを活かすために什器や書架の配置も考え、全体の雰囲気損なわないよう、一部は特注しました。見渡せる図書館であること、書架などは可動性が高いことを重視しました。書架はあえて7段を5段で使用し、上下を空けてあります。

蔵書数は約4万冊で、さらにノートパソコン50台を配備し、スタッフは司書教諭1名、司書2名で「調べ学習」にも対応しています。



——書架を拝見しておりますと、特に法律や経済分野などの専門書が充実し、大学図書館のような蔵書構成で驚きました。

本校は、明治大学の直系付属校であることを活かし、大学との連携による授業や講座、情報教育を用意しています。内部進学が前提のカリキュラムですので、10年または7年の長い期間を見通し、早いうちから自分の進路をじっくり考えて学部選択をすることができます。高大連携講座では、大学教員から直接、週2時間の連続授業を受けることができます。生徒は自分の興味のある学部の授業を受講し、より専門的な知識を身につけます。大学と高校をつなぐ連絡委員会が組織されており、連携がスムーズに行われています。付属校の生徒は図書館など大学の施設も利用できます。



また、高校3年生での卒業レポートが必須となっており、特に明治大学の伝統である法律や経済分野などは、専門書もかなり受け入れています。もともと男子校時代から本校の生徒は読書量が多く、図書館も活発に利用されてきましたが、現在の図書館は校舎との動線がとても良い場所にあり、さらに利用が高まりました。図書館からの情報発信として図書館前の通路や壁のディスプレイや掲示に力を入れています。図書の装備においても、重要な情報である表紙・帯ははずさず、全面コーティングしています。

現在中高生35名が活躍する「図書班」は、「委員会活動」でなく「部活動」として長い歴史があります。

——江竜先生は司書教諭として授業も受け持っておられるそうですが、どのような内容でしょうか。

本校では情報のインプットだけでなく、アウトプットについても重要と考えており、高校生は「探す」「書く」「話す」の少人数のグループでゼミ形式の特別授業により、プレゼンテーション、ディベートを通じて自分で決定したテーマを深く掘り下げ、高校3年生時の卒業レポートとしてまとめます。

私は、「探す」授業を担当しています。生徒たちは、大学の卒論にも匹敵するような、専門性の高い内容を選択し掘り下げて研究してきますから、図書館としては最大限それに応えたいと思います。選書は司書教諭が担当し、大学からの推薦図書や教員・生徒からの希望をできるだけ受け入れます。



「利用者に必要な資料を提供する」ということをさりげなくするのは、実は大変に難しいことで、全方位にアンテナを張って気を配っていかなくてはなりません。これからも、調べ物に困ったら気軽に使ってもらえる雰囲気を高めていきたいと思います。

——移転と同時に「情報館」をご導入いただき、OPACで利用者からの予約も受け付けておられますが、ご感想はいかがでしょう。

以前は他社システムを使用していましたが、「情報館」にリプレイスしたことにより、検索や統計、管理業務などの使い勝手が大変良くなりました。蔵書だけでなく、ノートPCにもバーコードを貼り、「情報館」で貸出管理をしています。

また、「情報館WebOPAC」は生徒たちにとっても良く使われていますね。「情報館」導入により、生徒がまずOPACで所蔵を検索する習慣がついたように思います。OPAC上で予約を入れられるのも便利で、いつもたくさん予約が入っています。

——本日はありがとうございました。緑あふれる環境と居心地のよい図書館で、心身ともに充実した学校生活を送る生徒さんのいきいきとした姿や挨拶が爽やかで、夏の暑さを忘れた一日でした。

明治大学付属高等学校・中学校図書館
Meiji High School & Meiji Junior High School,
Learning Resources Center

〒182-0003 東京都調布市富士見町4-23-25
http://www.meiji.ac.jp/ko_chu/

*外部の方の利用はできません。
 *データは2008年7月現在です。

